

## 薬についてもっと知ろう！

所沢ロイヤル病院 院長 大久保清一郎

## マスコミで氾濫する薬害報道



最近外来をやっていると、何人かの患者さんから同じような質問を受ける。「今、自分が飲んでいる薬は害があるのではないか」「家族が病院からもらっている薬は、本当に必要なのか」「ほかの病院で、手術を勧められたが、大丈夫か」など医療についての疑問が噴出している。

よく聞いてみると、どうやらいくつかの大衆週刊誌のネガティブキャンペーンの記事によるものらしい。私は、この週刊誌を以前から読まない事になっているが、新聞などに載っている広告の見出しをみると、確かに薬品名まで書いてある。また、手術の術式や歯科医療までき下ろしている。実際にそれらの週刊誌の内容を確認しなければ、正確なことは言えない。でも、広告の内容からおおよその事は分かる。わざわざお金を出して購入するまでの事はない。

では、なぜこのような記事が氾濫するのか。大げさで、度肝を抜くような見出しをつけ、本を買わせるようなやり方はもういい加減にしたらと思う。大衆週刊誌だけではない。ある種の出版物や、テレビなどでも、このような傾向が見られる。ただ売り上げを伸ばせばいいというだけではなさそうだ。何かの企みがあるのだろうか、そうでなければいいのだが。

## 医療保険の薬は国の認可

しかし、医療保険で使える薬は、すべて国の認可を受けている。もちろん、適応疾患については厳格なしほりがあるし、副作用についても明文化されている。しかも、発売後も、新たに発生した副作用などは、その都度注意喚起がなされている。医師たちにも、もし適正に使用していても、副作用が生じた場合は、国の関係機関の医薬品医療機器総合機構に報告する義務がある。また、月に一回は日本製薬団体連絡会より医薬品安全対策情報が各医療機関に通知されている。

それでも、患者さん一人ひとり症状も違い、いわゆる「合う、合わない」ということもある。明らかに、新たに服用し始めた薬のせいで以前より調子が悪くなる場合には、すぐ判断できるが、前よりなんとなく調子が悪い程度であると、見逃しがちになってしまう。先

生が出された薬だから間違いはないとか、病気の進行から止むを得ないなどの考えはやめたほうがいい。

## 薬の情報を熟読 確認しよう

医療機関から処方される場合は、必ず薬の形状や服用方法、効果、副作用などの情報を記した紙を渡される。以前と比べると平易な文章で説明されているので、是非とも熟読し、ご自分が飲んでいる薬を確認すべきである。最近では以前と違って、ジェネリックとよばれる後発品が増えており、薬品名もなじみやすい名前から成分名になっているため、我々医師でも覚えるのに苦労する。たとえば「アリセプト」は「ドネペジル塩酸塩」、「メバロチン」は「プラバスタチン」などである。いずれにしても、自分が飲んでいる薬の情報は、よく知っておく必要がある。なかには飲み合わせの悪い薬もある。併用すると効果が減弱したり、副作用が増強する場合があったり、飲み物などで効果が下がる薬もある。

## おくすり手帳は一冊に！

薬を処方されると、必ず「おくすり手帳」を渡される。なかには、「私、おくすり手帳を3冊も持っている」と豪語される人もいるが、これはだめ。お一人に一冊。どの医療機関、調剤薬局に行っても同じ手帳を見せてほしい。特に数ヶ所の医療機関を受診している人は注意が必要だ。別々のクリニックから併用禁忌の薬が出されたり、同効薬が二重に出されたりしてないか、このおくすり手帳でチェックが可能になる。

しかし、何よりも重要な事は、疑問があれば、直接担当の医師あるいは薬剤師に質問すること。特に薬剤師は薬のプロなので、なんでも相談しましょう。親切丁寧に答えてくれるでしょう。

## 薬の正しい知識で医療機関の有効利用を！

限りある医療資源を、有効に使っていくうえでも、必要最小限で効果のある薬を適正に使用していきましょう。もちろん、生活習慣病などは、場合により、日常生活のうえで、食事に注意したり、適度な運動をすることにより、薬を減量できたり、時になくすことも出来るのです。正しい知識は、身を守ることであります。